

評価の判定基準例

1 評価の3つの判定基準について

指導要録では、観点別評価の結果について、各教科の目標に照らして、それぞれの評価の観点に対する実現状況を、「十分満足できる」と判断されるものを「A」，「おおむね満足できる」と判断されるものを「B」，「努力を要する」と判断されるものを「C」と、3段階で評価することとしている。

そこで、本書では、指導要録に記入する観点別評価の結果との整合性をはかり、評価の信頼性を高めるために、どのような特徴が見られればA，B，Cと判定されるのかを記述した基準をあらかじめ用意しておくことが望ましいと考え、小単元毎に、A，Bの評価基準の具体例を示している。

実際の評価にあたっては、まず、「おおむね満足できる」状況のBを設定し、その評価基準に照らしてBであるか、Bに満たない「努力を要する」状況のCであるかを判断していく。次に、Bと判断されるもののうち、Bより質的・量的に高まっていると判断されるものを「十分満足できる」状況のAとし、児童1人ひとりの状況を的確にとらえていくようにする。その際、A，B，Cのそれぞれの達成状況を適切に評価するために、評価方法についても工夫していかなければならない。

では、Bより質的・量的に高まったAの状況とはどのような学習状況なのか、以下に具体例を示しておく。ただし、Aの状況は、この例をベースに置きながら、児童の発達段階や学校・学級の実態を考慮しながら設定していくことが望ましい。

【算数に対する関心・意欲・態度】

- ～のよさを進んで見いだしている。
- 進んで生活や学習に生かそうとしている。

【数学的な考え方】

- 根拠を明らかにしながら筋道だてて説明している。
- 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、簡潔・明瞭・的確に表現している。

- 多様な考えを見いだしている。
- 多様な考えを関連づけて整理している。
- よりよい考え（一般性・発展性など）を追求している。

【数学的な技能】

- ～を（が）確実にできる。
- ～を（が）速く正確にできる。
- ～を用いて工夫してできる。

【数学的な知識・理解】

- ～を確実に理解している。
- ～の感覚を十分にもっている。

2 個々の児童への指導の手だて

目標に準拠した評価においては、実現の状況が不十分な児童に対し、どのような指導を行い、その児童を「おおむね満足できる」状況に導くのが重要である。そこで、個に応じた指導の充実に向けたティーム・ティーチングや少人数指導などの指導体制の工夫、個別や小集団などの学習形態の工夫などの指導の改善を積極的にはかかっていきたい。

さらに、Cと評価した児童については、個のつまずきの状況に応じてスモールステップで補完していく学習の充実によりBに到達するための具体的な支援を、Bと評価した児童については基礎的・基本的な内容のより確実な習得と質的・量的に高まったAに到達するための具体的な支援を、Aと評価した児童には、更なる習熟と課題の発展性を追究し、理解の確実性を高め、数学的な考え方を伸ばすための具体的な支援が重要である。

このように、評価は、その結果が確実に1人ひとりの児童の学習活動に反映されなければならないし、指導者の学習指導の改善に生かされなければならない。評価とは、こうしたフィードバック機能をもった形成的なものである。

3 単元ごとの具体例

以下では、具体的に各単元での評価例を掲載しているが、前述のとおり、これを1つの例としてとらえ、児童の発達段階や学校・学級の実態を考慮しながら各校、各学級で設定していくことが望ましい。

1 3けたや4けたのたし算とひき算

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|-------------------------|---|---|
| 1 たし算の筆算 (●p. 6～11) | <p>関 3位数の加法の計算方法を考えるために、既習の計算を進んで生かそうとしている。</p> <p>考 2位数までの加法の計算原理と筆算の方法や手順をもとに、3位数までの加法の筆算のしかたを図や位取り表等を用いて説明している。</p> <p>技 一の位や十の位がくり上がる3位数までの加法の計算や4位数までの加法の計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 一の位や十の位がくり上がる3位数までの加法の計算や4位数までの加法の計算の原理や方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>関 3位数の加法の計算方法を考えるために、既習の計算を生かそうとしている。</p> <p>考 2位数までの加法の計算原理と筆算の方法や手順をもとに、3位数までの加法の筆算のしかたを説明している。</p> <p>技 一の位や十の位がくり上がる3位数までの加法の計算や4位数までの加法の計算を筆算でできる。</p> <p>知 一の位や十の位がくり上がる3位数までの加法の計算や4位数までの加法の計算の原理や方法、筆算のしかたを理解している。</p> |
| 2 ひき算の筆算 (●p. 12～16) | <p>考 既習の減法の計算原理と筆算の方法や手順をもとに、3位数までの減法の筆算のしかたを図や位取り表等を用いて説明している。</p> <p>技 くり下がりや被減数に空位がある3位数までの減法、及び4位数までの減法の計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 くり下がりや被減数に空位がある3位数までの減法、及び4位数までの減法の計算の原理や方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 既習の減法の計算原理と筆算の方法や手順をもとに、3位数までの減法の筆算のしかたを説明している。</p> <p>技 くり下がりや被減数に空位がある3位数までの減法、及び4位数までの減法の計算を筆算でできる。</p> <p>知 くり下がりや被減数に空位がある3位数までの減法、及び4位数までの減法の計算の原理や方法、筆算のしかたを理解している。</p> |

2 かけ算

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|------------------------|---|---|
| 1 0のかけ算 (●p. 19～20) | <p>技 乗数や被乗数が0の乗法の式表示が確実にできる。</p> <p>知 乗数や被乗数が0の乗法の式表示と、その意味や積について確実に理解している。</p> | <p>技 乗数や被乗数が0の乗法の式表示ができる。</p> <p>知 乗数や被乗数が0の乗法の式表示と、その意味や積について理解している。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| <p>2 かけ算のきまり (●p. 21～26)</p> | <p>関 乗法に関して成り立つ性質を 7×6 の答えの求め方に進んで生かそうとしている。</p> <p>考 7×6 の求め方を、乗法に関して成り立つ性質や分配法則をもとに、式と図を用いて考え、説明している。また、乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗数や被乗数が10の乗法の計算のしかたを見だし、図や式を用いて説明している。</p> <p>技 乗数や被乗数が10の乗法の計算が確実にできる。</p> <p>知 乗法に関して成り立つ性質を確実に理解している。</p> | <p>関 乗法に関して成り立つ性質を 7×6 の答えの求め方に生かそうとしている。</p> <p>考 7×6 の求め方を、乗法に関して成り立つ性質や分配法則をもとに考え、説明している。また、乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗数や被乗数が10の乗法の計算のしかたを見だししている。</p> <p>技 乗数や被乗数が10の乗法の計算ができる。</p> <p>知 乗法に関して成り立つ性質を理解している。</p> |
|---|---|--|

3 時こくと時間

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|--|--|---|
| <p>1 時こくや時間のもともめ方 (●p. 29～33)</p> | <p>関 2学年の時刻と時間の学習をふりかえるなかで、さらに時刻や時間について考えていこうとする意欲を十分にもっている。</p> <p>考 時計の文字盤をもとに、ある時刻から一定時間前後の時刻の求め方を考え、長針と短針がどのように動いたのかを理由としながら説明している。</p> <p>技 ある時刻から一定時間前後の時刻、ある時刻からある時刻までの時間、2つの時間をたした時間やひいた時間を確実に求めることができる。</p> <p>知 ある時刻から一定時間前後の時刻、ある時刻からある時刻までの時間、2つの時間をたした時間やひいた時間の求め方を確実に理解している。</p> | <p>関 2学年の時刻と時間の学習をふりかえるなかで、さらに時刻や時間について考えていこうとする意欲をもっている。</p> <p>考 時計の文字盤をもとに、ある時刻から一定時間前後の時刻の求め方を考えている。</p> <p>技 ある時刻から一定時間前後の時刻、ある時刻からある時刻までの時間、2つの時間をたした時間やひいた時間を求めることができる。</p> <p>知 ある時刻から一定時間前後の時刻、ある時刻からある時刻までの時間、2つの時間をたした時間やひいた時間の求め方を理解している。</p> |
| <p>2 短い時間 (●p. 34)</p> | <p>技 ストップウォッチを用いて、短い時間の測定をし、分や秒を用いて正確に表すことができる。</p> <p>知 1分＝60秒の関係を確実に理解している。</p> | <p>技 ストップウォッチを用いて、短い時間を分や秒で測定することができる。</p> <p>知 1分＝60秒の関係を理解している。</p> |

4 かけ算の筆算

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|-------------------------------------|--|--|
| 1 何十、何百の かけ算 (●p. 37～38) | <p>考 何十、何百×1位数の計算を、10や100を単位として乗法九九をもとにして考え、位取り表や図等を用いて説明している。</p> <p>知 何十、何百×1位数の計算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 何十、何百×1位数の計算を、10や100を単位として乗法九九をもとにして考え、説明している。</p> <p>知 何十、何百×1位数の計算のしかたを理解している。</p> |
| 2 (2けた)× (1けた)の筆算 (●p. 39～43) | <p>関 2位数×1位数の計算のしかたを既習の乗法をもとに、進んで考えようとしている。</p> <p>考 2位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や既習の乗法を用いて考え、位取り表や図等を用いて説明している。</p> <p>技 2位数×1位数の計算が筆算で確実にできる。</p> <p>知 2位数×1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>関 2位数×1位数の計算のしかたを進んで考えようとしている。</p> <p>考 2位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や既習の乗法を用いて考え、説明している。</p> <p>技 2位数×1位数の計算が筆算でできる。</p> <p>知 2位数×1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを理解している。</p> |
| 3 (3けた)× (1けた)の筆算 (●p. 44～45) | <p>考 3位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や既習の乗法を用いて考え、位取り表や図等を用いて説明している。</p> <p>技 3位数×1位数の計算が筆算で確実にできる。</p> <p>知 3位数×1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 3位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や既習の乗法を用いて考え、説明している。</p> <p>技 3位数×1位数の計算が筆算でできる。</p> <p>知 3位数×1位数の計算原理や方法、筆算のしかたを理解している。</p> |
| 4 かけ算のきまり (●p. 46) | <p>技 乗法の結合法則を適切に用いて計算することができる。</p> <p>知 乗法の結合法則の意味を確実に理解している。</p> | <p>技 乗法の結合法則を計算に活用することができる。</p> <p>知 乗法の結合法則の意味を理解している。</p> |
| 5 かけ算とことばの式や図 (●p. 47～48) | <p>考 乗法に関するいろいろなことばの式を、具体的な場面の意味を説明しながら、1つのことばの式にまとめることができる。</p> <p>技 乗法の場面で、テープと数直線の図を用いて立式し、その根拠を説明している。</p> <p>知 乗法の場面が、「1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ」ということばの式に表されることが、乗法の場面の数量の関係を、テープと数直線の図に表す方法を確実に理解している。</p> | <p>考 乗法に関するいろいろなことばの式を1つのことばの式にまとめることができる。</p> <p>技 乗法の場面で、テープと数直線の図を用いて立式することができる。</p> <p>知 乗法の場面が、「1つ分の大きさ×いくつ分＝全体の大きさ」ということばの式に表されることが、乗法の場面の数量の関係を、テープと数直線の図に表す方法を理解している。</p> |

5 ぼうグラフと表

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|----------------------------|--|--|
| 1 整理のしかた (📍p. 51～53) | <p>関 身近な事象について調べる際に、分類整理するよさを感じ、進んで処理しようとしている。</p> <p>考 資料を分類し、表に表すことによって事象に見通しをもち、その理由を説明したり、整理して考えたりしている。</p> | <p>関 身近な事象について調べる際に、分類整理するよさを感じ、処理しようとしている。</p> <p>考 資料を分類し、表に表すことによって事象に見通しをもち、整理して考えている。</p> |
| 2 ぼうグラフの読み方 (📍p. 54～55) | <p>考 棒グラフのよさや表し方の工夫について考え、具体的に説明している。</p> <p>技 1目盛りの大きさに留意して、棒グラフの数量を正確に読み取ることができる。</p> <p>知 棒グラフの意味や読み方、項目が時系列の順に並べられた棒グラフの読み方や、そのよさについて確実に理解している。</p> | <p>考 棒グラフのよさや表し方の工夫について考えている。</p> <p>技 1目盛りの大きさに留意して、棒グラフの数量を読み取ることができる。</p> <p>知 棒グラフの意味や読み方、項目が時系列の順に並べられた棒グラフの読み方や、そのよさについて理解している。</p> |
| 3 ぼうグラフのかき方 (📍p. 56～57) | <p>考 資料の最大値とグラフ用紙の大きさを理由として説明し、グラフの1目盛りの大きさを筋道だてて考えている。</p> <p>技 資料をもとにして、棒グラフを正確に手際よくかくことができる。</p> <p>知 棒グラフの表し方を確実に理解している。</p> | <p>考 資料の最大値とグラフ用紙の大きさをもとにして、グラフの1目盛りの大きさを筋道だてて考えている。</p> <p>技 資料をもとにして、棒グラフをかくことができる。</p> <p>知 棒グラフの表し方を理解している。</p> |
| 4 表のくふう (📍p. 58～59) | <p>考 資料を二次元の表にまとめ、そこから資料の特徴をいろいろな観点から考察し、説明している。</p> <p>知 二次元の表の読み方や表し方、そのよさについて確実に理解している。</p> | <p>考 資料を二次元の表にまとめ、そこから資料の特徴を考察している。</p> <p>知 二次元の表の読み方や表し方、そのよさについて理解している。</p> |

6 わり算

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|-------------------------|--|---|
| 1 1人分は何こ (📍p. 64～68) | <p>関 除法の意味や計算のしかたについて、乗法との関連や具体物の操作などから積極的にとらえようとしている。</p> <p>技 除法の用いられる場面（等分除）について、除法の式表示をし、乗法九九を用いて答えを求めることが素早く正確にできる。</p> <p>知 等分したときの1つ分の数を求めるときは、除法の式に表せばよいことや、等分除の答えは乗法九九を用いて求められることを確実に理解している。</p> | <p>関 除法の意味や計算のしかたについて、乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとしている。</p> <p>技 除法の用いられる場面（等分除）について、除法の式表示をし、乗法九九を用いて答えを求めることができる。</p> <p>知 等分したときの1つ分の数を求めるときは、除法の式に表せばよいことや、等分除の答えは乗法九九を用いて求められることを理解している。</p> |

| | | |
|--|---|---|
| <p>2 何人に分けられる (●p. 69～72)</p> | <p>関 除法の意味や計算のしかたについて、乗法との関連や具体物の操作などから積極的にとらえようとしている。</p> <p>考 等分除、包含除を既習の乗法をもとに考え、図や半具体物を用いながら説明している。</p> <p>技 除法の用いられる場面（包含除）について、除法の式表示をし、乗法九九を用いて答えを求めることが素早く正確にできる。</p> <p>知 等分したときのいくつ分の数を求めるときは、除法の式に表せばよいことや、包含除の答えは乗法九九を用いて求められることを確実に理解している。</p> | <p>関 除法の意味や計算のしかたについて、乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとしている。</p> <p>考 等分除、包含除の意味や違いを、既習の乗法をもとに考えている。</p> <p>技 除法の用いられる場面（包含除）について、除法の式表示をし、乗法九九を用いて答えを求めることができる。</p> <p>知 等分したときのいくつ分の数を求めるときは、除法の式に表せばよいことや、包含除の答えは乗法九九を用いて求められることを理解している。</p> |
| <p>3 0や1のわり算 (●p. 73)</p> | <p>考 具体的な場面で、被除数が0の場合や除数が1の場合などを既習の除法と同じように考え、説明している。</p> <p>知 被除数が0の場合や除数が1の場合の除法の意味を確実に理解している。</p> | <p>考 具体的な場面で、被除数が0の場合や除数が1の場合などを既習の除法と同じように考えている。</p> <p>知 被除数が0の場合や除数が1の場合の除法の意味を理解している。</p> |
| <p>4 倍とわり算 (●p. 74)</p> | <p>知 何倍かを求めるときに除法が用いられることを確実に理解している。</p> | <p>知 何倍かを求めるときに除法が用いられることを理解している。</p> |

7 分数

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|--|--|---|
| <p>1 分数 (●p. 78～81)</p> | <p>関 1つのものをいくつかに等分した大きさをもとに、いろいろな分数について進んで調べようとしている。</p> <p>技 1mや1Lをn等分したいくつ分の長さやかさを分数で表したり、端数部分の大きさを分数で表したりすることが確実にできる。</p> <p>知 1mを3等分した1つ分の長さを$\frac{1}{3}$mと表すことや、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を確実に理解している。</p> | <p>関 1つのものをいくつかに等分した大きさをもとに、分数について進んで調べようとしている。</p> <p>技 1mや1Lをn等分したいくつ分の長さやかさを分数で表したり、端数部分の大きさを分数で表したりすることができる。</p> <p>知 1mを3等分した1つ分の長さを$\frac{1}{3}$mと表すことや、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を理解している。</p> |
| <p>2 分数のしくみ (●p. 82～84)</p> | <p>技 量を表す単位分数をもとにしたり、分数を数としてとらえたりして、いろいろな大きさの分数を表すことができる。</p> <p>知 $\frac{5}{5}$mは1mと同じであることや1より大きい分数があること、「不等号」の用語とその意味を確実に理解している。</p> | <p>技 量を表す単位分数をもとにしたり、分数を数としてとらえたりして、いろいろな大きさの分数を表すことができる。</p> <p>知 $\frac{5}{5}$mは1mと同じであることや1より大きい分数があること、「不等号」の用語とその意味を理解している。</p> |

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| 3 分数のたし算とひき算 (📖p. 85～87) | <p>考 分数のしくみに基づいて、同分母の真分数どうしの加法・減法や、1から真分数をひく計算の方法を考え、図を用いて説明している。</p> <p>知 同分母の真分数どうしの加法・減法や、1から真分数をひく計算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 分数のしくみに基づいて、同分母の真分数どうしの加法・減法や、1から真分数をひく計算の方法を考えている。</p> <p>知 同分母の真分数どうしの加法・減法や、1から真分数をひく計算のしかたを理解している。</p> |
|------------------------------------|---|---|

8 円と球

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|---------------------------|--|--|
| 1 円 (📖p. 89～96) | <p>関 まるい形について進んで調べたり、コンパスの有用性をコンパスの開き具合を変えながら活用したり、円を使った模様をいろいろとかいてその美しさを味わったりしている。</p> <p>考 1点から等しい距離にある点の集まりが円になることを、いくつかとった点から帰納的に見だし、具体的に説明している。</p> <p>技 コンパスを用いて円をかいたり、長さを写し取ったり、同じ長さに区切ったり、いろいろな模様をかいたりすることが正確に手際よくできる。</p> <p>知 「円」、円の「中心」、「半径」、「直径」の用語とそれらの意味や性質、コンパスを用いた円のかき方を確実に理解している。</p> | <p>関 まるい形について進んで調べたり、コンパスの有用性を活用したり、円を使った模様をかいてその美しさを味わったりしている。</p> <p>考 1点から等しい距離にある点の集まりが円になることを見いだしている。</p> <p>技 コンパスを用いて円をかいたり、長さを写し取ったり、同じ長さに区切ったり、いろいろな模様をかいたりすることができる。</p> <p>知 「円」、円の「中心」、「半径」、「直径」の用語とそれらの意味や性質、コンパスを用いた円のかき方を理解している。</p> |
| 2 球 (📖p. 97～98) | <p>技 球の直径の長さを正確にはかることができる。</p> <p>知 球の概念や性質と、球に関する用語の意味を確実に理解している。</p> | <p>技 球の直径の長さをはかることができる。</p> <p>知 球の概念や性質と、球に関する用語の意味を理解している。</p> |

9 いろいろなわり算

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|--|---|--|
| 1 あまりのあるわり算 (●p. 103～106) | <p>関 あまりのある除法の計算を、あまりのない除法の計算のときと同様に進んで問題解決に活用しようとしたり、活用できそうな生活場面を考えようとしたりしている。</p> <p>考 既習の除法と関連づけて、あまりのある除法でも乗法九九を使って答えが求められることを筋道だてて説明したり、あまりの処理のしかたについて筋道だてて説明したりしている。</p> <p>技 あまりのある除法の式表示と計算が確実にできる。</p> <p>知 「あまり」、「わりきれない」、「わりきれぬ」の用語とそれらの意味と、あまりと除数の大小関係を確実に理解している。</p> | <p>関 あまりのある除法の計算を、あまりのない除法の計算のときと同様に進んで問題解決に活用しようとしている。</p> <p>考 既習の除法と関連づけて、あまりのある除法でも乗法九九を使って答えが求められることを説明したり、あまりの処理のしかたについて説明している。</p> <p>技 あまりのある除法の式表示と計算ができる。</p> <p>知 「あまり」、「わりきれない」、「わりきれぬ」の用語とそれらの意味と、あまりと除数の大小関係を理解している。</p> |
| 2 答えが2けたになるわり算 (●p. 107～108) | <p>考 何十÷1位数の計算は、10を単位としてみれば乗法九九を用いて計算できることを、図を用いて順序よく説明している。</p> <p>知 2位数÷1位数の計算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 何十÷1位数の計算は、10を単位としてみれば乗法九九を用いて計算できることを説明している。</p> <p>知 2位数÷1位数の計算のしかたを理解している。</p> |

10 長さ

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|-----------------------------------|--|---|
| 1 長さのはかり方 (●p. 113～115) | <p>関 巻尺の目盛りの読み方や使い方を進んで調べようとしている。</p> <p>技 巻尺を用いていろいろなものの長さを正確に測定することができる。</p> <p>知 巻尺の必要性や目盛りの読み方、測定のしかたを確実に理解している。</p> | <p>関 巻尺の目盛りの読み方や使い方を調べようとしている。</p> <p>技 巻尺を用いていろいろなものの長さを測定することができる。</p> <p>知 巻尺の必要性や目盛りの読み方、測定のしかたを理解している。</p> |
| 2 キロメートル (●p. 116～118) | <p>関 1kmを意欲的に歩いたり、身のまわりの標識や地図などいろいろなものからkm表示のものを意欲的にさがしたりして、長さに関する量感をとらえようとしている。</p> <p>技 1km=1000mの関係を用いたり、km、m単位で表された長さの加減の計算をしたりすることが確実にできる。</p> <p>知 km単位の必要性や、1km=1000mの関係、「道のり」と「きより」の違いを確実に理解している。</p> | <p>関 1kmを歩いたり、身のまわりからkm表示のものをさがしたりして、長さに関する量感をとらえようとしている。</p> <p>技 1km=1000mの関係を用いたり、km、m単位で表された長さの加減の計算をしたりすることができる。</p> <p>知 km単位の必要性や、1km=1000mの関係、「道のり」と「きより」の違いを理解している。</p> |

11 小数

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|--------------------------------|--|---|
| 1 はしたの大きさの表し方 (●p. 120～124) | <p>関 1Lに満たないはしたのかさの表し方に関心をもち、どのように表したらよいかを、身近な場面や既習の事柄などを例に挙げながら考えようとしている。</p> <p>技 かさや長さを小数を用いて単名数で確実に表すことができる。</p> <p>知 端数部分を小数で表す表し方や読み方を確実に理解している。</p> | <p>関 1Lに満たないはしたのかさの表し方に関心をもち、どのように表したらよいかを考えようとしている。</p> <p>技 かさや長さを小数を用いて単名数で表すことができる。</p> <p>知 端数部分を小数で表す表し方や読み方を理解している。</p> |
| 2 小数のしくみ (●p. 125～128) | <p>考 小数と分数の関係をもとに、大小比較のしかたを考え、図や数直線を用いながら説明している。</p> <p>技 数直線上に小数を表したり、表された小数を読み取ったり、小数どうしや小数と分数の大小比較をしたりすることが確実にできる。</p> <p>知 「$\frac{1}{10}$の位」、「小数第一位」、「数直線」の用語とそれらの意味や、小数の十進構造、$\frac{1}{10}$を単位とした分数と小数との関係を確実に理解している。</p> | <p>考 小数と分数の関係をもとに、大小比較のしかたを考えている。</p> <p>技 数直線上に小数を表したり、表された小数を読み取ったり、小数どうしや小数と分数の大小比較をしたりすることができる。</p> <p>知 「$\frac{1}{10}$の位」、「小数第一位」、「数直線」の用語とそれらの意味や、小数の十進構造、$\frac{1}{10}$を単位とした分数と小数との関係を理解している。</p> |
| 3 小数のたし算とひき算 (●p. 129～133) | <p>考 0.1のいくつ分という見方をもとにして小数の加法・減法の計算方法を位取り表や図を用いて説明したり、小数のしくみと筆算を関連づけて考えたりしている。</p> <p>技 $\frac{1}{10}$の位までの小数の加法・減法の計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 $\frac{1}{10}$の位までの小数の加法・減法の計算のしかた、筆算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 0.1のいくつ分という見方をもとにして小数の加法・減法の計算方法を説明したり、小数のしくみと筆算を関連づけて考えたりしている。</p> <p>技 $\frac{1}{10}$の位までの小数の加法・減法の計算を筆算でできる。</p> <p>知 $\frac{1}{10}$の位までの小数の加法・減法の計算のしかた、筆算のしかたを理解している。</p> |

12 重さの単位

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|------------------------|---|---|
| 1 グラム (●p. 136～138) | <p>関 重さに関心をもち、重さの大小の予想を立て、いろいろなものを進んで重さ比べしようとしている。</p> <p>考 重さも長さやかさと同じように、単位を決めて数値化できると考え、自分で何を単位と決めて数値化したのか説明している。</p> <p>知 重さの単位に「グラム」があり、「g」と書くことを確実に理解している。</p> | <p>関 重さに関心をもち、進んで重さ比べをしようとしている。</p> <p>考 重さも長さやかさと同じように、単位を決めて数値化できると考えている。</p> <p>知 重さの単位に「グラム」があり、「g」と書くことを理解している。</p> |

| | | |
|---|---|---|
| <p>2 はかり (●p. 139～143)</p> | <p>関 はかりに興味・関心をもち、進んではかりを用いてもものの重さを測定しようとし、日常生活で生かそうとする意欲をもっている。</p> <p>技 重さの見当をつけて計器を選択し、秤量1kgや4kgのはかりを用いて重さを正確に測定することができる。</p> <p>知 はかりの目盛りの読み方や使い方、kg単位の必要性と1kg＝1000gの関係を確実に理解している。</p> | <p>関 はかりに興味・関心をもち、進んではかりを用いてもものの重さを測定しようとしている。</p> <p>技 重さの見当をつけて計器を選択し、秤量1kgや4kgのはかりを用いて重さを測定することができる。</p> <p>知 はかりの目盛りの読み方や使い方、kg単位の必要性と1kg＝1000gの関係を理解している。</p> |
| <p>3 重さのはかり方のくふう (●p. 144)</p> | <p>考 重さに関する加減の計算を適用し、工夫して重さの問題を解決し、どのように工夫したのか説明している。</p> <p>技 重さに関する加減の計算が確実にできる。</p> <p>知 重さに関する加減の計算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 重さに関する加減の計算を適用し、工夫して重さの問題を解決している。</p> <p>技 重さに関する加減の計算ができる。</p> <p>知 重さに関する加減の計算のしかたを理解している。</p> |
| <p>4 トン (●p. 145)</p> | <p>知 重さの単位tは大きな重さを表す単位であることや、1t＝1000kgの関係を確実に理解している。</p> | <p>知 重さの単位tは大きな重さを表す単位であることや、1t＝1000kgの関係を理解している。</p> |
| <p>5 単位のしくみ (●p. 146)</p> | <p>考 長さ、かさ、重さの単位について、上位単位は下位単位の何倍かを既習の単位の関係から考え、どの単位の関係をもとにして考えたのか説明している。1mmことなどを確実に理解している。</p> <p>知 単位にキロがついたりミリがとれたりすると、大きさが1000倍になることなどを確実に理解している。</p> | <p>考 長さ、かさ、重さの単位について、上位単位は下位単位の何倍かを既習の単位の関係から考えている。</p> <p>知 単位にキロがついたりミリがとれたりすると、大きさが1000倍になることなどを理解している。</p> |

13 10000 より大きい数

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|---------------------------------------|--|---|
| <p>1 万の位 (●p. 149～155)</p> | <p>関 十進位取り記数法のよさに気づき、いろいろな1万より大きな数を表そうとしている。</p> <p>考 1000を単位として数を相対的にみて、数の構成について考え、位取り表や図を用いて説明している。</p> <p>技 千万の位までの数を表したり、読んだり、数直線上に表したり、大小比較をしたりすることが正確にできる。</p> <p>知 1億までの数について、十進位取り記数法による表し方、読み方、相対的な大き</p> | <p>関 十進位取り記数法のよさに気づき、1万より大きな数を表そうとしている。</p> <p>考 1000を単位として数を相対的にみて、数の構成について考えている。</p> <p>技 千万の位までの数を表したり、読んだり、数直線上に表したり、大小比較をしたりすることができる。</p> <p>知 1億までの数について、十進位取り記数法による表し方、読み方、相対的な大きさなどを理解している。</p> |

| | | |
|--|-----------------------|--|
| | <p>さなどを確実に理解している。</p> | |
|--|-----------------------|--|

| | | |
|---|--|--|
| 2 10倍, 100倍の数や$\frac{1}{10}$の数 (●p. 156~158) | <p>考 ある数を100倍した数は、ある数の10倍を10倍した数であると考え、図などをもとに説明している。</p> <p>知 ある数の10倍, 100倍, $\frac{1}{10}$の大きさ、及びその表し方を確実に理解している。</p> | <p>考 ある数を100倍した数は、ある数の10倍を10倍した数であると考えている。</p> <p>知 ある数の10倍, 100倍, $\frac{1}{10}$の大きさ、及びその表し方を理解している。</p> |
| 3 大きな数の計算 (●p. 159) | <p>考 万を単位とした数の和や差の求め方を、数の相対的な大きさの見方を活用して考え、位取り表や図を用いて説明している。</p> <p>技 万を単位として、大きな数の和や差を求めることができる。</p> | <p>考 万を単位とした数の和や差の求め方を、数の相対的な大きさの見方を活用して考えている。</p> <p>技 万を単位として、大きな数の和や差を求めることができる。</p> |

14 2けたの数をかける計算

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|---------------------------------------|---|--|
| 1 何十をかける計算 (●p. 164~168) | <p>考 何十をかける計算のしかたを、既習の1位数をかける計算に帰着して考え、位取り表や計算の工夫を用いて説明している。</p> <p>知 何十をかける計算の原理や方法を確実に理解している。</p> | <p>考 何十をかける計算のしかたを、既習の1位数をかける計算に帰着して考え、説明している。</p> <p>知 何十をかける計算の原理や方法を理解している。</p> |
| 2 2けたの数をかける計算 (●p. 169~172) | <p>考 2位数をかけるの計算や筆算のしかたを、数構成や十進位取り記数法などをもとに既習の乗法に帰着して考え、筋道だててわかりやすく説明している。</p> <p>技 2位数をかける計算を筆算で確実にできる。</p> <p>知 2位数をかける計算の原理や方法、筆算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 2位数をかけるの計算や筆算のしかたを、数構成や十進位取り記数法などをもとに既習の乗法に帰着して考え、説明している。</p> <p>技 2位数をかける計算を筆算でできる。</p> <p>知 2位数をかける計算の原理や方法、筆算のしかたを理解している。</p> |
| 3 計算のくふう (●p. 173~174) | <p>考 数構成による数の見方や乗法の結合法則、交換法則を活用して、乗法を手際よく計算する方法を考え、そのように計算できるわけを筋道だてて説明している。</p> <p>知 乗法の手際のよい計算のしかたを確実に理解している。</p> | <p>考 数構成による数の見方や乗法の結合法則、交換法則を活用して、乗法を手際よく計算する方法を考えている。</p> <p>知 乗法の手際のよい計算のしかたを理解している。</p> |

15 二等辺三角形と正三角形

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|------------------------------------|---|---|
| 1 いろいろな三角形 (●p. 177～181) | <p>関 ストローを用いていろいろな三角形を辺の長さの見通しをもって多様に作り、三角形の特徴を調べようとしている。</p> <p>考 三角形を、二等辺三角形や正三角形の集まりに分類することにより、分類した観点を明らかにして、それぞれの三角形の特徴を見だし、説明している。</p> <p>技 いろいろな三角形のなかから、二等辺三角形や正三角形を正確に弁別することができる。</p> <p>知 「二等辺三角形」や「正三角形」の用語とそれらの定義を確実に理解している。</p> | <p>関 ストローを用いていろいろな三角形を作り、三角形の特徴を調べようとしている。</p> <p>考 三角形を、二等辺三角形や正三角形の集まりに分類することにより、分類した観点をもとにそれぞれの三角形の特徴を見いだしている。</p> <p>技 いろいろな三角形のなかから、二等辺三角形や正三角形を弁別することができる。</p> <p>知 「二等辺三角形」や「正三角形」の用語とそれらの定義を理解している。</p> |
| 2 二等辺三角形や正三角形のかき方 (●p. 182～183) | <p>関 いろいろな二等辺三角形、正三角形を進んで作図しようとしている。</p> <p>考 二等辺三角形や正三角形のかき方を、その図形の特徴や円の性質をもとに見いだし、手順を説明している。</p> <p>技 円の性質を活用して、二等辺三角形や正三角形を正確に手際よく作図することができる。</p> <p>知 二等辺三角形や正三角形のかき方を確実に理解している。</p> | <p>関 二等辺三角形、正三角形を作図しようとしている。</p> <p>考 二等辺三角形や正三角形のかき方を、その図形の特徴や円の性質をもとに見いだししている。</p> <p>技 円の性質を活用して、二等辺三角形や正三角形を作図することができる。</p> <p>知 二等辺三角形や正三角形のかき方を理解している。</p> |
| 3 三角形の角 (●p. 184～185) | <p>関 二等辺三角形や正三角形の角の大きさに関心をもち、進んで調べようとしている。</p> <p>考 二等辺三角形や正三角形を観察したり、折ったり重ねたりする活動を通して、二等辺三角形と正三角形の角の性質を帰納的に見いだし、図を用いながら具体的に説明している。</p> <p>技 2つの角を重ねることによって、角の大きさを正しく比べることができる。</p> <p>知 角の定義や二等辺三角形や正三角形の角の性質について確実に理解している。</p> | <p>関 二等辺三角形や正三角形の角の大きさに関心をもち、調べようとしている。</p> <p>考 二等辺三角形や正三角形を観察したり、折ったり重ねたりする活動を通して、二等辺三角形と正三角形の角の性質を帰納的に見いだししている。</p> <p>技 2つの角を重ねることによって、角の大きさを比べることができる。</p> <p>知 角の定義や二等辺三角形や正三角形の角の性質について理解している。</p> |

| | | |
|--|--|---|
| <p>4 二等辺三角形や正三角形のしきつめ (◎p. 186)</p> | <p>関 合同な二等辺三角形や正三角形で平面をしきつめる活動をたのしみ、進んでいろいろな模様を作り、平面のひろがりやできる模様の美しさに気づいている。</p> <p>考 合同な二等辺三角形や正方形をしきつめた模様のなかから、いろいろな形を多様に見いだしている。</p> <p>知 合同な二等辺三角形や正三角形で平面をしきつめ、そのなかにいろいろな形を認めたり、模様の美しさを感じたりし、図形に対するより豊かな感覚をもっている。</p> | <p>関 合同な二等辺三角形や正三角形で平面をしきつめる活動をたのしみ、平面のひろがりやできる模様の美しさに気づいている。</p> <p>考 合同な二等辺三角形や正方形をしきつめた模様のなかから、いろいろな形を見いだしている。</p> <p>知 合同な二等辺三角形や正三角形で平面をしきつめ、そのなかにいろいろな形を認めたり、模様の美しさを感じたりし、図形に対する豊かな感覚をもっている。</p> |
|--|--|---|

16 □を使った式

| 小単元 | 十分満足できる | おおむね満足できる |
|---|---|---|
| <p>1 たし算とひき算 (◎p. 189～191)</p> | <p>関 □を用いることのよさがわかり、積極的に□を用い、式や図に表そうとしている。</p> <p>考 減法の問題場面で、加法のときの未知の数量の表し方を想起しながら、未知の数量を□として数量関係を式に表したり、□にあてはまる数を求めたりし、どのように考えたのか説明している。</p> <p>技 具体的な場面について、未知の数量を□として数量関係を式に表したり、□にあてはまる数を求めたりすることが確実にできる。</p> | <p>関 □を用いることのよさがわかり、□を用いようとしている。</p> <p>考 減法の問題場面で、加法のときの未知の数量の表し方を想起しながら、未知の数量を□として数量関係を式に表したり、□にあてはまる数を求めたりしようとしている。</p> <p>技 具体的な場面について、未知の数量を□として数量関係を式に表したり、□にあてはまる数を求めたりできる。</p> |
| <p>2 かけ算とわり算 (◎p. 192～194)</p> | <p>関 加法と減法の学習を生かし、□を用いることのよさがわかり、解決への見通しをもって□を用い、式や図に表そうとしている。</p> <p>考 具体的な場면을、□を用いた式と図に表し、図を使って式を説明したり、式の数値を使って図を説明したりし、式と図の関係を明らかにしている。</p> <p>知 □を用いると式表示が容易になり、数量関係が明確になることを確実に理解している。</p> | <p>関 □を用いることのよさがわかり、解決への見通しをもって□を用いようとしている。</p> <p>考 具体的な場면을、□を用いた式と図に表し、図を使って式を説明したり、式の数値を使って図を説明したりしている。</p> <p>知 □を用いると式表示が容易になり、数量関係が明確になることを理解している。</p> |